

日阪通信

第90期

2018.4.1—2019.3.31



CO₂回収用プレート式熱交換器(SX-80)

BUSINESS REPORT

株主の皆さまへ

この度、第90期事業年度が終了いたしましたので、その概要をご報告申し上げます。

当年度における世界経済は、米国の堅調な景気拡大にけん引され緩やかな成長で推移しましたが、米中貿易摩擦の激化や中国経済の失速、不安定な欧州情勢など、先行き不透明な状況が続いております。一方、国内経済は企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、継続して緩やかな回復基調で推移しました。

このような経済環境の中、当社グループの受注高は、熱交換器事業、その他事業が減少となりましたが、プロセスエンジニアリング事業、バルブ事業は好調に推移し、30,669百万円(前年度比6.1%増)となりました。売上高は、全セグメントで増収となり、30,939百万円(同15.1%増)となりました。

利益面では、事業拡大に向けた人員体制強化に伴い人件費が増加しましたが、売上高の増加により、営業利益は2,040百万円(同26.9%増)となり、経常利益は2,337百万円(同19.1%増)となりました。一方、親会社株主に帰属する当期純利益は、投資有価証券に関する特別利益の計上が減少したほか、大阪府北部地震などの被害に対する災害関連費用を特別損失に計上したことなどにより、1,596百万円(同17.2%減)となりました。

株主の皆さまには、何卒今後とも一層のご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2019年6月
代表取締役社長

竹下好和

セグメント別業績

(※記載金額は、内部取引消去前の金額)

SEGMENT INFO.

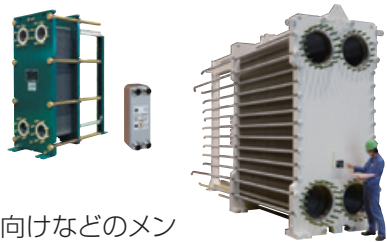
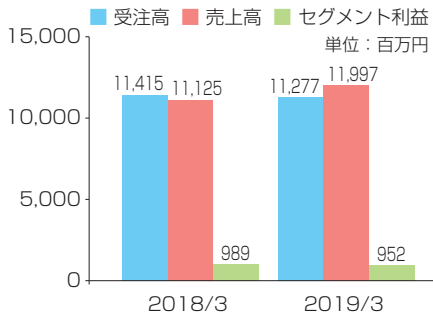
熱交換器事業

熱交換器事業は様々な産業で不可欠となる、流体の加熱・冷却を行うプレート式熱交換器を製造・販売する事業です。

国内化学業界向けや船舶向けのメンテナンス関連が好調に推移したほか、海外造船案件などを受注しましたが、プラント案件が停滞したことなどにより、受注高は11,277百万円(前年度比1.2%減)となりました。

売上高は、国内化学業界向けなどのメンテナンス関連が好調に推移したほか、海外プラント案件や船舶案件の受注残などにより11,997百万円(同7.8%増)となりました。

セグメント利益は、高採算案件の減少や人件費、原材料費などのコストアップがあったことから、952百万円(同3.7%減)となりました。



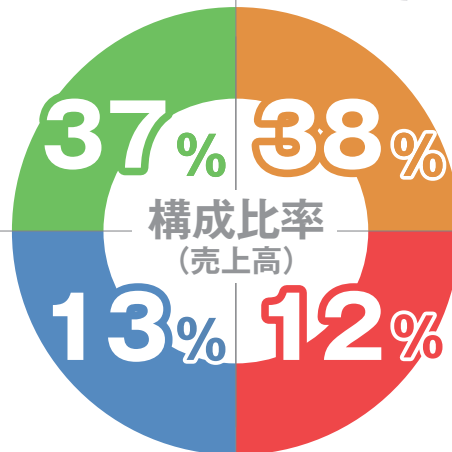
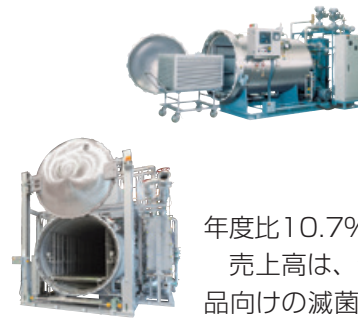
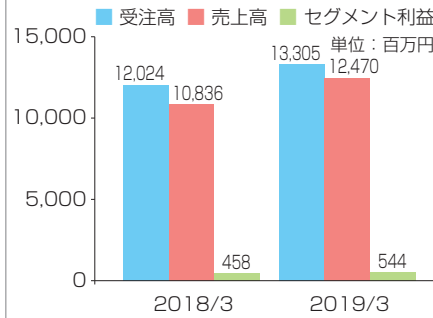
プロセスエンジニアリング事業

プロセスエンジニアリング事業は、レトルト食品などの調理殺菌装置、医薬品の滅菌装置及び繊維製品の染色仕上機器などを製造・販売する事業です。

レトルト食品やチルド食品向けの殺菌装置の受注が好調に推移したほか、無菌包装米飯製造設備を国内外で受注しました。また、染色仕上機器部門でも更新案件や大口案件を受注し、受注高は13,305百万円(前年度比10.7%増)となりました。

売上高は、無菌包装米飯製造設備や医薬品向けの滅菌機、調合設備などの大口案件により12,470百万円(同15.1%増)となりました。

セグメント利益は、人件費などのコストアップがありました。増収効果などから、544百万円(同18.8%増)となりました。



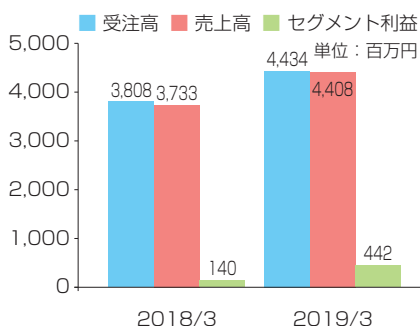
バルブ事業

バルブ事業は、様々な流体の制御に使われるボールバルブなどを製造・販売する事業です。

国内化学業界向けの更新需要が堅調に推移したほか、チョコレート製造ライン向けや二次電池製造ライン向けの用途限定弁の受注拡大により、受注高は4,434百万円(前年度比16.4%増)となりました。

売上高は、受注が好調に推移したことにより、4,408百万円(同18.1%増)となりました。

セグメント利益は、人件費などのコストアップがありました。売上高の増加や高付加価値品の販売強化などにより、442百万円(同214.3%増)となりました。



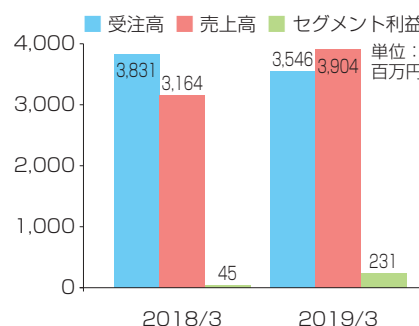
その他事業

その他事業は、国内・海外の子会社による事業と鴻池事業所で推進している太陽光発電事業です。

マレーシア子会社で熱交換器の大口部品案件を受注したほか、当年度より連結範囲とした旭工業株式会社の受注高が加算されましたが、中国子会社では染色仕上機器の案件が延期されるなど、受注高は3,546百万円(前年度比7.4%減)となりました。

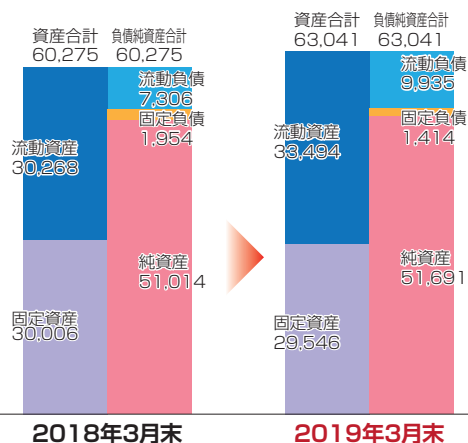
売上高は、マレーシア子会社で部品案件が堅調に推移し、国内子会社では食品機器の大型案件を売上計上したほか、受注高同様旭工業株式会社の売上高が加算され、3,904百万円(同23.4%増)となりました。

セグメント利益は、売上高の増加などにより、231百万円(同408.5%増)となりました。



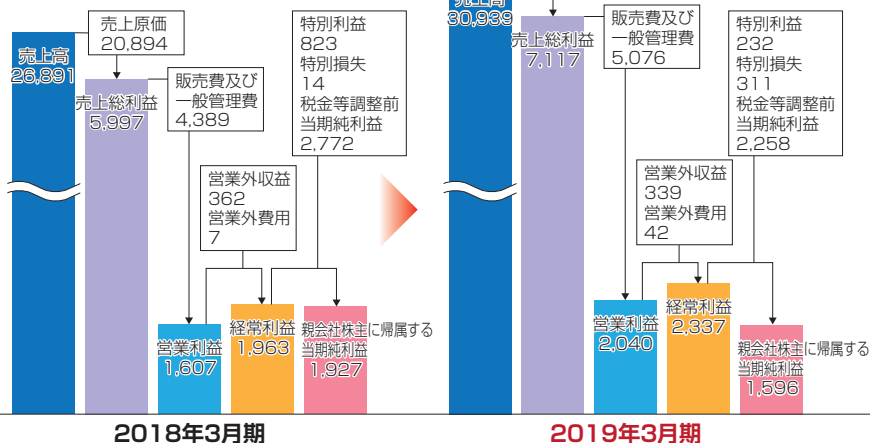
連結貸借対照表の概要

単位：百万円



連結損益計算書の概要

単位：百万円



(注)「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を2019年3月期の期首より適用しており、2018年3月期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

トピックス

TOPICS



抗体医薬品などの製造設備を扱う 小松川化工機株式会社をグループ会社化

当社は4月3日付で小松川化工機株式会社の株式を取得し、当社グループに迎えました。

同社は世界的に市場が拡大している抗体医薬品の製造装置のほか、化学や食品向け関連設備に関する技術やノウハウを有しています。一方当社グループは医薬滅菌機や食品殺菌機をはじめ各種製造プラントなどを手掛けており、今後は同じグループの一員として、互いの技術、ノウハウ、生産体制、販路などを活用し、事業領域の拡大や新規顧客の獲得を目指します。

社名	小松川化工機株式会社
創業年月	1946年(昭和21年)12月
事業所	(本社) 東京都千代田区 (工場) 埼玉県三郷市、千葉県成田市
従業員数	99名(2019年5月現在)
事業内容	食品・化学機械装置、バイオ・医薬機器装置等の製造販売及びプラントエンジニアリング事業
売上高	1,357百万円(2018年6月期)
資本金	100百万円(2019年5月現在)
株主構成	株式会社日阪製作所 94.59% その他 5.41%



動物細胞培養プラント



微生物大量培養装置



日阪のCO₂回収プラント用 熱交換器

今年5月、当社は火力発電所のCO₂回収プラント向けに大型プレート式熱交換器「SX-80」を納入しました。

CO₂回収プロセスとして「アミン溶液」などを吸収剤とする「化学吸収法」があります。このプロセスはCO₂は低温で吸収され易く高温で放出され易いという性質を利用して、排ガス中のCO₂をアミン溶液で選択吸収し放出することで分離・回収します。しかし、この放出のための加熱に多くのエネルギーを要します。

当社の高性能プレート式熱交換器「SX-80」は熱回収効率が非常に高く、加熱に必要なエネルギーを冷却すべきアミン溶液から90%以上熱回収できます。また、使用する部品には高温のアミン溶液に対して高い耐久性を持つ素材を開発。ランニングコストの低減と安定運転を実現しました。

当社はCO₂回収プロセス以外の工程においても、省エネルギー性の高い熱交換器を提案・提供することで、お客さまとともにCO₂排出量削減に貢献してまいります。



CO₂回収プラント
(イメージ)



CO₂回収用プレート式
熱交換器「SX-80」

単位：百万円

区分	年度	第86期	第87期	第88期	第89期	第90期
		(2015年3月期)	(2016年3月期)	(2017年3月期)	(2018年3月期)	(2019年3月期)
受注高		25,391	25,770	26,594	28,914	30,669
売上高		24,398	25,393	25,023	26,891	30,939
営業利益		1,342	1,184	1,161	1,607	2,040
経常利益		1,831	1,532	1,374	1,963	2,337
親会社株主に帰属する当期純利益		1,313	2,688	2,191	1,927	1,596
1株当たり当期純利益(円)		44.01	90.04	73.42	64.56	53.48
総資産		63,252	58,473	55,616	60,275	63,041
純資産		50,963	47,191	48,254	51,014	51,691
1株当たり純資産(円)		1,706.50	1,580.27	1,616.24	1,708.71	1,731.40

(注)「[税効果会計に係る会計基準]の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第90期の期首より適用しており、第89期に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

CORPORATE PROFILE

会社概要 (2019年3月31日現在)

役員 (2019年6月27日現在)

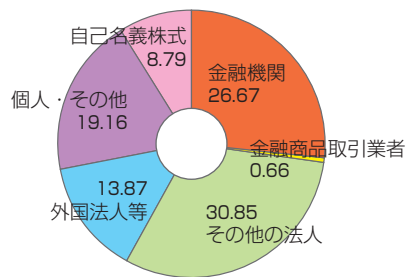
社名 株式会社日阪製作所
HISAKA WORKS, LTD.
創業 1942年5月
資本金 41億5千万円
従業員数 連結749名 単体574名
本社所在地 大阪市北区曽根崎二丁目12番7号
支店・工場 東京支店(東京都中央区)
名古屋支店(愛知県名古屋市)
九州支店(福岡県福岡市)
北九州支店(福岡県北九州市)
鴻池事業所(大阪府東大阪市)
主要な子会社 マイクロゼロ株式会社(東京都立川市)
HISAKAWORKS S.E.A. SDN. BHD.(マレーシア)
日阪(中国)機械科技有限公司(中国)

代表取締役社長 竹下 好和
常務取締役 井上 哲也
常務取締役 太田 光治
常務取締役 飯塚 正志
取締役 船越 俊之
取締役 足立 昭仁
取締役 宇佐美俊哉
取締役(社外) 水元 公二
取締役(社外) 角野 佑子
常勤監査役 中道 貢
監査役(社外) 三浦 博文
監査役(社外) 仲井 晃

株式状況 (2019年3月31日現在)

STOCK INFO.

発行可能株式総数 129,020,000株
発行済株式総数 32,732,800株
株主数 2,982名
所有者別持株比率(%)



大株主(上位10名)

株主名	持株数	持株比率
日新製鋼株式会社	2,903,264株	9.72%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,063,400株	6.91%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,413,200株	4.73%
日本生命保険相互会社	960,770株	3.21%
株式会社三菱UFJ銀行	912,640株	3.05%
因幡電機産業株式会社	910,802株	3.05%
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	678,623株	2.27%
株式会社タクマ	642,000株	2.15%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	621,019株	2.08%
株式会社みずほ銀行	612,640株	2.05%

(注)自己株式(2,877,487株)は除外しております。

株主メモ

SHAREHOLDERS MEMO

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告の方法	電子公告 公告掲載URL https://www.hisaka.co.jp ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

(ご注意)

- 株主さまの住所変更、買取請求、配当金の振込指定、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。